

デモ行進で氣勢

補償要求の水俣漁民

水俣病関係被害補償金一億八千三百十五万一千円を新日窒水俣工場に要求、知事あつせん（工場側）

せず、あくまで直接交渉でゆきたいとする二十一日から同工場止門前付近で座りこみをつづけている水俣市漁協（組合長松田市次郎氏、組合員二百十四人）は二十八日朝十時すぎから百七十余人が工場止門前を出て市内をデモ行進した。

この日、松田組合長を先頭に各部落ごとに「地元解決をのぞむ」「打ちひしがれた漁民の生活」などのプラカードを押し立ててデモ行進、組合長は水俣駅前

やバス角、警察前などで「市長と市会議場にあつせんしてもらおうよう工場側にたのんでみたがこれもことわられ、とりつく島もなくなった、われわれは争いはやめてあくまで円満解決をのぞんでおり、操業できないわれわれの苦境をわかっていただきたい」とマイクで訴えた。

このあと組合員たちは市役所玄関前で市側へ陳情、新町、新道路を通り、正午前工場止門前に帰り、ふたたび座りこみに入ったが、デモは平穩に行なわれた。二十九、三十の両日もひきつづき朝九時半から正午ごろまで市内をデモ行進

する。工場側は知事あつせんの方針をかえていないが、漁民の工場雇用を考へており、工場側として

も円満解決をのぞんでいるようだ。しかし工場側知事あつせん、漁協側直接交渉の二つの線は双方ともゆずらないみこみで座りこみは長びくものとみられる。